

第6講 花粉から見たギリシア史：樹木花粉

花粉に関する指標と評価

AP 値 (Arboreal Pollen Values 樹木花粉値)

森林>疎林>マキ>ステップ

AP 値の増加：降雨量の増加を示す

20%以下：ステップの植生

マツやカシ、ナラ、オリーブなどの花粉は遠距離を飛来

マツやカシ、ナラの花粉値が15%以下の場合遠くからの飛来を示す

80~20%：ステップの間に疎林がモザイク状に点在する状態を示す

NAP 値 (Non Arboreal Values 非樹木=草本花粉値)

ステップ>疎林>マキ>森林

80~90%：ステップである事を示す

樹木花粉

広葉樹：温暖な気候

針葉樹：寒冷な気候

Quercus cerris-type (ナラ)：地中海性気候・落葉性

乾燥化が進むと減少

高地地中海の植生 (平均 14.5%)・年平均気温 12~15 度

比較的湿潤

オリーブ栽培による破壊・森林伐採による破壊→*Poterium* (ゲンゲ)の増加

低地地中海では平均 1.7%

Quercus coccifera-type (トルコガシ)：地中海性気候・常緑性

低地地中海の植生

1月の平均気温：5.4~5.5 度以上

年平均降雨量：500mm 以下

Pinus (マツ)：地中海性気候

100~1800mの山地に垂直分布

半乾燥性

年平均気温：12~15 度

1月の平均気温：7 度

年平均降雨量：600mm

乾燥化が進むと減少

陽性の先駆種・養分要求度が小さい

低地地中海の植生：50%以上

高地地中海の植生：平均 14.4%

Olea (オリーブ)：地中海性気候

冬期の暖かさと湿潤・夏期の暑さと乾燥

果樹栽培

高地地中海の植生 (平均 16.5%)

カシの森林を切り開いて栽培

貧栄養の土壌 (山の傾斜面など)

Pistacia (ピスタチア)：地中海性気候

温暖な冬期・夏期の暑さと乾燥

果樹栽培

高地地中海の植生 (平均 3.2%)

疎林の場合には 4%に達する

Castanea (クリ)：地中海性気候

果樹栽培

平野周辺の山間部に生育

Juglans (クルミ)：地中海性気候

果樹栽培

平野周辺の山間部に生育

Fraxinus (トネリコ)：森林破壊後の二次林として出現

Vitis (ブドウ)：地中海性気候

果樹栽培

年平均気温 10～20 度摂氏

枝の剪定が必要

富栄養の土壌では根を張らせて実をつけない

Tamalix (ギョリュウ)：地中海性気候

川沿い・集落の周辺や道路沿い

温暖で湿潤な冬期と熱く乾燥した夏期

Abies (モミ)：

Juniperus (ネズ)：

Ulmus (ニレ)：家畜の飼料として葉や小枝が利用されるその急激な減少は牧畜の拡大

を想定させる。

気候の寒冷化(7月の平均気温 13 度以下・1月の平均気温 1.6 度以下)

や栄養塩類などの土壌溶脱による減少

ニレの減少がオオバコなどの草本植物の出現と一致

Tilia (ボダイジュ) :

Pagus (ブナ) :

Carpinus (シデ) :

Hippophae (グミ) : 落葉性の低木もしくは高木

水路に沿って繁殖